

「人権に関する作文・絵画(小中学生の部)入選作品」

すべての町民の基本的な人権が尊重され、差別のない明るく住みよい町の実現に向け、人権に関する標語、絵画、作文を募集しました。その中から、入選作品の作文7点、絵画8点を随時紹介いたします。(学年は、平成24年度のものです。)

豊能町人権まちづくり協会・豊能町教育委員会



東ときわ台小学校
5年 下村 純矢



光風台小学校 6年
橋本 伊織

「沖縄戦」

光風台小学校 六年 井畑 陽貴

ぼくは、夏休みに沖縄に行きました。そして、戦跡を訪ねました。そこでは、いろいろな、戦争の爪痕を見ることができました。そして、戦跡を訪ねました。そこでは、まず、ひめゆりの塔に行きました。そして、戦跡を訪ねました。そこでは、ここには必ずどこかに、「敵に捕まえられるなら自決する。」という言葉がありました。ぼくはそんなことをするなんて、馬鹿だと思いました。みんな米兵に捕まえられたらひどいことをされ、家族や兄弟にもひどいことをされると思っていたのでしょうか。

次に思ったことは、民間人と兵士の差です。兵士が壕を使う、と言ったから、中に入っていた民間人は出なくてはなりません。敵からの攻撃や、爆撃などがある中で壕から追いつけられず危ないです。それなのに兵士たちは、民間人を外に出しました。民間人のことなど全く考えていません。兵士たちも、戦うので必死だったかもしれないけれど、だからといって、自分中心に考えて民間人を犠牲にするのは、いけないと思います。そしてその考え方があったから、日本はさらに戦争に突入していったんだと思います。

さらに、ひめゆり学徒隊についても考えました。戦争が激しくなってきた、人出が足りなくなってきたから学生が動員されたのです。普通の病院に動員するのなら安全でままだししょう。しかし、ひめゆり学徒隊が動員されたのは、最前線の壕の中の病院でした。ぼくはそんな所に動員したら危ないと思います。爆弾や砲弾がゆきかう中で、民間人、ましてや高校生をまきこむのはよくないと思います。

その後、旧陸軍病院壕跡に行きました。そこでは、実際の壕の中に入りました。横百八十七センチメートルたて百八十七センチメートルぐらいのせまくて暑くて暗い所でした。そういう所で、ひめゆり学徒隊の人が手当てをしていてくれたそうです。手当てのしかたは、診察もしないで、まずいもなしで、手や足をノコギリで切りおとすやり方です。ぼくは、まずいもなしで手や足を切りおとして、かわいそうだなと思いました。それと切りおとすのを手伝った学生もつらかったです。人の心をへしませて、傷つけ合い、命をうばう。戦争はムチャクチャです。人の心をへしませて、傷つけ合い、命をうばう。

そんな戦争をなぜ日本はしたのでしょうか。『日本には資源がないから』と書いてある本がありました。資源がなくとも自分たちで努力して日本の領土でさかしたり、日本らしさがあるものを売る。そうすればいいんじゃないですか。他の国と戦争し、国をうばい、そしてそこで資源をとる。そんなことをしても、資源よりも失うもののほうが多いと思います。

平和でふつうに家族と一緒に生活する、そういう生活を人々は望んでいてはるはずですが、それなのにそんな思いをぶちこわす戦争が、なぜ今も世界各地で起こっているんだらう。日本は原爆も落とされ、戦争がどんなにひどいことか分かっているのに、なぜ戦争を止めようとしななんだらう。自分の国は関係ないようなふりをしてきたらだめだ。ぼくはそのために、みんなに戦争のひびきを伝えていきたいです。

町の木/スギ



町の花/タンポポ



町の鳥/ウグイス



人の動き	人口	男	女	世帯数
H25.3月末日	22,096人	10,605人	11,491人	8,746世帯
前月比	-109人	-41人	-68人	-3世帯
面積	34.37km ²			